

80年三里塚闘争勝利人闘志みなぎる

日刊 動労千葉

80.1.10
No.321

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）四三二二・七二〇七

1月8日反対同盟旗幟

1月8日県労連旗幟

1月8日、三里塚・芝山連合空港反対同盟は岩山公民館において旗開きを開催した。結集した反対同盟はもとより、支援の各団体は二期工事決戦勝利、80年こそ三里塚闘争勝利の年にしようという固くちかいあったのである。この旗開きには、動労千葉から西森副委員長、中江前本部副委員長、高橋執行委員、田中青年部長が代表として参加し、80年代を闘う動労千葉・反対同盟の労農連帯のきづなをより強固にした。80年三里塚をめぐむる情勢は、政府・空港公団の二期工事着工策動を許すのか否かを問う重大な時機を迎えている。反対同盟は、三里塚闘争勝利こそ全日本人民の解放の勝利を実現するものであると決意を新たにしている。われわれは、この反対同盟の闘魂を受けとめ、三里塚・ジェット闘争貫徹、「国鉄35万人体制」攻撃粉碎へ決起し、闘いの全人民的高揚をつくりだしてゆかなければならない。

あらゆる反動・攻撃をはねか
えして、必ず勝利する年！
石橋副委員長

北原事務局長の開会の挨拶で始められた旗開きは、冒頭主催者を代表して、石橋副委員長より「79年の闘いも、委員長の死はあったが、動労千葉の二波にわたる決起など実りある年であった。今年には三里塚が勝利する年だ。あらゆる反動をのりこえ、労働学人民の闘いで80年代を勝利しよう」という力強い決意が行われた。

つづいて、西森副委員長、中江前本部副委員長がそれぞれ挨拶を行い、80年代を闘う動労千葉の決意を表明し全参加者の拍手で確認されていた。その後共闘団体の挨拶・決意表明のあと、内田行動隊長の乾杯の音頭が冬空にこだました。

勇大な北総台地のもとで、和気あいあいの酒がくみかわされた。反対同盟にこの人ありといわれる敷地内石毛常吉さんがマイクをしっかりと握りしめ、決意表明し得意の「名調子」を披露……われんばかりの拍手と笑いがおこった。こうなれば宴もたけなわ、秋葉救対部長と石毛さんのユーモラスな司会で、参加者は次々にマイクを握られ、動労千葉も西森副委員長がたち、自慢の美声を発揮した。

これを受けて反対同盟北原事務局長がたち「十八番」の歌を披露した。その後、全参加者は、話に花がさき、15年目に入った空港粉砕闘争の確信にみちた和気あいあいの祝宴が続けられ、互いに三里塚闘争勝利をちかいあったのである。

反対同盟への敵対・破壊
を策す革マル派弾劾ノ

昨年12月26日、革マル派は、石橋、北原両氏に對し、機関紙「解放」を、あろうことか黒棒つきの封筒に入れ送りつけてきた。それはかなりか戸村委員長之死を「おめでとう」等といったはなつたのである。

県下各単産より二〇〇名が参加ノ

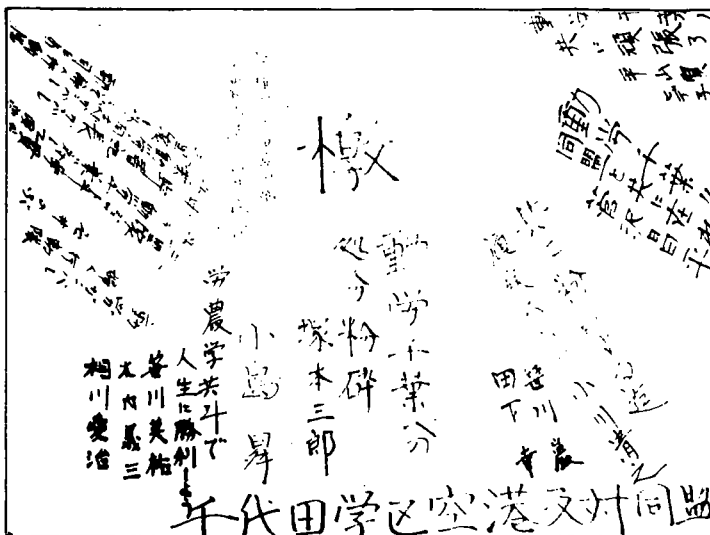
1月8日、県労連旗開きは、県下各単産代表者など二〇〇名が結集し、盛会裡に行われた。

動労千葉からは、関川委員長、中野書記長、水野財政部長が参加した。

この旗開きは、統一と団結をスローガンに、80春闘、参議院選勝利をかつとる闘いの意志結集の場としてもあり、各界の挨拶も80年を闘う決意がそれぞれ述べられていった。

動労千葉は、今日まで県労連傘下の組合として、最大限の闘いをつくり出してきた。今後とも県労連運動の最先頭に立ち、牽引していくとともに県下各単産の有機結合をはかり、より地域に密着した巾のある闘いへと発展していかなければならない。

このように三里塚闘争を誹謗中傷し、悪罵をなげかけ敵対してきた、革マル派に對し、反対同盟は、三里塚はもとより、あらゆる職場、学園、地域、すべてのたたかう戦線から完全追放することを怒りをもって宣言した。



反対同盟より、たくさんの幟布が送られました。